

### 3 研究目的

サンゴや藻場に代表される沿岸生態系は高い生態系サービスを有しているだけでなく、水産資源を直接的に育むゆりかごとしても極めて重要である。一方、地球温暖化・海洋酸性化・貧酸素化といった全球的な要因や、過剰漁業・土地利用変化・富栄養化といった局所的な要因が複合的に重なり合い、沿岸生態系の分布・多様性・機能は変化しており、将来の人間社会に対する影響も懸念されている。これらの要因に対する沿岸生態系の影響評価・予測が国内外の様々な大型プロジェクトのもと推進されているが、プロジェクト間の相互の情報交換や連携は十分とはいえない。このような背景に鑑み、本ワークショップを参加者各人のこれまでの研究成果を持ち寄り、情報交換を行うことで沿岸生態系の評価・予測に関する相互理解を深め、今後の研究推進と相互協力・共同研究の契機とする。

### 4 研究内容

代表者（藤井賢彦）、分担者（吉田吾郎）と拠点対応教員（吉江直樹）がコンビーナーとなり、令和2年12月16日、17日の両日に Zoom meeting system を介したオンラインにて、同センターの共催を得て標記ワークショップを開催した。当初、水産研究・教育機構生産技術研究所廿日市拠点での開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催に変更したが、35名の参加を得ることができた。具体的な研究発表内容については、別添のプログラムを参照されたい。

### 研究成果

オンライン開催に切り替えざるを得なかったため、当初予定していた現地での巡検等を実施できなかったが、それでも予想を大幅に上回る35名の参加を得て、本ワークショップ開催の目的は十分に達成されたと考える。

第5回までと同様、同研究分野に関する研究推進と相互協力・共同研究、ならびに次世代を担う若手研究者の育成を促進する国内プラットフォームを、代表者・分担者・拠点対応教員らが中心となって構築していくための契機とすべく、今後もワークショップの開催を継続・発展していくことで合意を得た。

## 成果発表

該当なし

## 今後の問題点

当初、現地開催では日程的・予算的に都合がつかなかった参加者もオンライン開催に切り替えたなら参加できるようになった面もあるが、本ワークショップの目的のひとつである研究コミュニティの情報交換・交流の醸成という観点では現地開催には及ばない面も多々あり、上述のような、本ワークショップの継続的な開催に対する要望にどう応えていくかが今後の最大の課題である。



第6回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ プログラム（敬称略）

小埜 恒夫（水産研究・教育機構）：沿岸域の酸性化と貧酸素化：BEACHプロジェクト

Lawrence Bernardo（北海道大学大学院地球環境科学研究院）：沿岸生態系の貧酸素化・海洋酸性化影響の評価・予測のための陸域—海域統合モデルの開発

藤田 大和（北海道大学大学院環境科学院）：海洋酸性化がキタムラサキウニ幼生へ及ぼす影響

堀 正和（水産研究・教育機構）：農水省における脱炭素化社会に向けた研究動向について：ブルーカーボンを中心に

須藤 健二（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所）：種分布モデルを用いた藻場群集構成の推定の試み

渡辺 謙太（海上・港湾・航空技術研究所）：大型海藻場からの溶存有機炭素放出

棚谷 灯子（海上・港湾・航空技術研究所）：人工構造物を用いた新たな生息場の創造によるサンゴ礁生態系の再生

所 立樹（国立環境研究所 地球環境研究センター）：内湾域における大気中 CO<sub>2</sub> 吸収量と生物活動の影響の評価

茂木 博匡（海上・港湾・航空技術研究所）：海草植生抵抗が浅海域の一次生産に与える影響

黒田 充樹（北海道大学大学院環境科学院）：北海道日本海南西部における降海型アメマスの遡河降海行動

朱 妍卉（北海道大学大学院環境科学院）：スマート水産業に関する事例の紹介

小川 颯兵（愛媛大学大学院理工学研究科）：西部瀬戸内海における長期栄養塩変動に関する研究

石床 紗耶香（愛媛大学理学部地球科学科）：瀬戸内海全域における栄養塩と水産資源の時空間変動に関する研究

林 由真（愛媛大学スーパーサイエンスコース）：宇和海におけるカレニアミキモトイ赤潮と環境要因に関する研究

平嶺 彩華（愛媛大学工学部環境建設工学科）：生態系モデルを用いた播磨灘の低次生態系動態に関する研究

- 南 憲吏（島根大学エスチュアリー研究センター）：海底地形図作成オープンプラットフォームの構築
- 山北 剛久（JAMSTEC）：日本の海の生態系サービス分布、将来の評価指標検討に向けて
- 長岡 祥平（北海道大学水産学部）：夏季のさくら湖におけるウグイの行動と湖内環境の関係の解明
- 松原 賢（水産研究・教育機構）：干潟・浅海域における微細藻類のサイズ組成と群集組成観測
- 梶原 直人（水産研究・教育機構）：意外とオモシロい？ 怠け者備忘録～チョット工夫でこの楽しさ～
- 阿保 勝之（水産研究・教育機構）：広島湾の海水流動に及ぼす気象の影響
- 鬼塚 剛（水産研究・教育機構）：広島湾におけるマガキ幼生輸送モデルの開発